

海藻押し葉を作ろう

環境増養殖担当 中西 達也

Key word: 海に関心, 海藻押し葉, タッチングプール, チリメンモンスター

"海藻押し葉"とは海藻を使った押し葉で、ケント紙の上に自分の思い思いに海藻を貼り付け、乾燥して仕上げるものです。海藻は陸上の植物とは大きく異なり、形は奇抜で多種多様、色はカラフルなので、海藻押し葉は多くの人にとって普段見ることのない風合いを持っています。材料の海藻を見た方の中には、その思いもよらぬ形や色に驚かれる方もいます。

私たちは、未来を担う多くの子供たちに、海の世界や生き物、漁業に関心を持ってもらうためにタッチングプール、チリメンモンスターなどのイベントをおこなっています。さらに子供向けのイベントとして平成22年5月29日の県職連合まつりにおいて海藻押し葉作りを試験的に実施してみました。



写真 1. 海藻押し葉の作成に取り組む子供達と出来上がった海藻押し葉

今回、用意した海藻は、マクサ、ホソバノサカモドキ、ユカリ、シキンノリなどの紅藻、アミジグサなどの褐藻、アナアオサなどの緑藻で、筆者らが春の大潮の干潮時に鳴門市岡崎海岸などで採集したものです。

海藻押し葉を美しく仕上げるためには、ダンボールや吸湿紙、重石などを使い、圧力をかけてゆっくり乾燥させます。今回はその場ですみやかに完成させる必要があるため、ドライヤーやアイロンを駆使して乾燥し、最後にラミネート加工してお返しするという工程になりました。

ラミネート加工をする前に、いかに形を崩すことなく、水分を取るかが美しく仕上げるコツです。しかし、海藻によっては、乾燥に非常に時間がかかるものや、紙から離れて形が崩れるものがあります。そのため、比較的短時間で容易にキレイに仕上がりにしやすい海藻を選んで提供することにし

ました。この点、皆さんに種類豊富な本県海藻(特に褐藻類)を堪能していただくことができず残念でした。

また、薄っぺらなアミジグサ、葉が薄く形も繊細なユカリなどは、素手では紙に広げにくく、水を含ませた筆やピンセットを使ったり、紙を水に漬けて水の中で海藻の形を整えながら貼り付けたりするワザを教えたが、小学生にはなかなか難しかったようで、海藻の葉の部分がかなり重なったままの作品が多かったようです。

しかし、子供達は一心に海藻押し葉に取り組んでくれました。なかには何回もチャレンジしてくれる子もいて、楽しんでいただけたようでした。大人の方にも満足してもらえたと思います。

ピンセットなどで海藻の細かな部分を丁寧に広げる作業などは、難しいプラモデルをキレイに仕上げているような感覚になり、時間がたつのを忘れさせてくれました。

自然が作り出した海藻の"美"を一枚の紙に集める"海藻押し葉"は、とても優雅で上質な時間を皆さんに提供してくれることでしょう。

海に関心を持ってもらうイベントとして海藻押し葉もタッチングプール、チリメンモンスターに並び有効なことがわかりました。皆さんも海藻押し葉に挑戦してみたいはいかがでしょうか。